

(19) 世界知的所有権機関  
国際事務局



(43) 国際公開日  
2001 年 10 月 25 日 (25.10.2001)

PCT

(10) 国際公開番号  
WO 01/78553 A2

(51) 国際特許分類: A45D 44/00

(21) 国際出願番号: PCT/JP01/03162

(22) 国際出願日: 2001 年 4 月 12 日 (12.04.2001)

(25) 国際出願の言語: 日本語

(26) 国際公開の言語: 日本語

(30) 優先権データ:  
特願2000-112667 2000 年 4 月 13 日 (13.04.2000) JP

(71) 出願人 (米国を除く全ての指定国について): 株式会社 資生堂 (SHISEIDO COMPANY, LTD.) [JP/JP]; 〒104-8010 東京都中央区銀座7丁目5番5号 Tokyo (JP).

(72) 発明者; および

(75) 発明者/出願人 (米国についてのみ): 加藤緑子 (KATO, Midoriko) [JP/JP]. 池内国弘 (IKEUCHI, Kunihiro)

[JP/JP]. 田中 博 (TANAKA, Hiroshi) [JP/JP]. 砂川恵子 (SUNAKAWA, Keiko) [JP/JP]; 〒141-0031 東京都品川区西五反田3丁目9番1号 株式会社 資生堂ビューティクリエーション研究所内 Tokyo (JP).

(74) 代理人: 伊東忠彦 (ITO, Tadahiko); 〒150-6032 東京都渋谷区恵比寿4丁目20番3号 恵比寿ガーデンプレイスタワー32階 Tokyo (JP).

(81) 指定国 (国内): CN, KR, US.

(84) 指定国 (広域): ヨーロッパ特許 (AT, BE, CH, CY, DE, DK, ES, FI, FR, GB, GR, IE, IT, LU, MC, NL, PT, SE, TR).

添付公開書類:

— 第17条(2)(a)に基づく宣言; 要約なし; 国際調査機関により点検されていない発明の名称。

2文字コード及び他の略語については、定期発行される各PCTガゼットの巻頭に掲載されている「コードと略語のガイダンスノート」を参照。

(54) Title: MAKEUP COLOR IMAGE SORTING METHOD AND MAKEUP COLOR IMAGE MAP

(54) 発明の名称: メーキャップカラーイメージ分類法およびメーキャップカラーイメージマップ

(57) Abstract:

WO 01/78553 A2

## 明細書

## メーキャップカラーイメージ分類法およびメーキャップカラーイメージマップ

## 5 技術分野

本発明は、顔にメーキャップを施して、すなわち、色を肌にのせて得られるカラーイメージを分類するメーキャップカラーイメージ分類法およびメーキャップカラーイメージをマップ表現したメーキャップカラーイメージマップに関する。

## 10 背景技術

顔のメーキャップは、通常、経験や感覚に基づいて施される場合が多い。しかしながら、各自が自らメーキャップを施す場合、期待したイメージどおりに表現することは必ずしも容易ではない。また、他人の顔にメーキャップを施してイメージを演出する場合には、対象となる顔は千差万別であるため、各人の要望どおりに演出するには、かなりの経験と特殊な感覚を必要とする。

このようなメーキャップによる演出法を理論的に説明する試みもなされている。

例えば、顔の形態が与えるイメージを考慮してメーキャップを演出することが従来より行われている。これは、美術における造形理論を応用したものであり、直線や曲線等の形状毎に平均的、特徴的なイメージが知られている。しかしながら、これをメーキャップに適用した場合、部分的には所望のイメージを得ることができても、顔全体として見たときに必ずしもバランスのよいイメージが得られるという保証はない。

この顔の形態が与えるイメージを考慮してメーキャップを演出する方法に関して、本出願人は、既に、顔だち分類法および顔だちマップを提案している（日本国出願 特開平10-75823号公報参照）。

この顔だち分類法および顔だちマップは、図1に示すように、顔の長さまたは目、眉等の顔の形態要素の配置状態を示すバランス軸と顔の輪郭形状または前記顔の形態要素を示すフォルム軸とからなる座標空間に対象とする顔の位置付けを

行うことにより顔だちを分類し、また、このような座標空間からなるマップを作成するものである。

- この顔だち分類法および顔だちマップによれば、顔を総合的にとらえ、顔のイメージを生起させる要因を科学的に明らかにし、これに基づいて、効果的なメーキャップの演出を行うことを可能としたものである。

- また、例えば、カラーイメージを考慮してメーキャップを演出することも従来より行われている。これは、美術における色彩理論を応用したものであり、例えば、図2に示すように、各カラーと感情との関係についての平均的な認識に基づくものである。この場合も、顔の形態の場合と同様に、部分的には所望のイメージを得ることができても、顔全体として見たときに必ずしもバランスのよいイメージが得られるという保証はない。なお、色彩学上カラーを多次元的にとらえたものとして、図3に示すように、色感覚の三属性を三軸にとった色立体があるが、この色立体からカラーイメージを多次元的にとらえてメーキャップを演出するのに活用した例はない。

- 上記のようにカラーイメージを考慮してメーキャップを演出する方法に関しては、必ずしも効果的な手法を見出せていないのが現状である。

#### 発明の開示

- 本発明は、この点に鑑みてなされたものであり、色を純粹に扱う色彩学に基づくのではなく、色を肌にのせた顔が与えるメーキャップのカラーイメージを総合的にとらえ、それに基づいてメーキャップによる演出を効果的に行うことができるメーキャップカラーイメージ分類法およびメーキャップカラーイメージマップを提供することを目的とする。

- この目的を達成するため、本発明に係るメーキャップカラーイメージ分類法は、色を肌にのせて得られる、温感・涼感、性格、マインドから選ばれる少なくとも1つを示すカラーイメージ指標と軽快・重厚、成熟・未熟、マチュアーから選ばれる少なくとも1つを示すカラーイメージ指標とを使ってリップカラーおよびアイカラーのうちの少なくともいずれか1つを分類し、またこのとき、前記温感・涼感、性格、マインドから選ばれる少なくとも1つを示すカラーイメージ指標

と前記軽快・重厚、成熟・未熟、マチュアーから選ばれる少なくとも1つを示すカラーイメージ指標とを座標軸にとって二次元的に分類することを特徴とする。

なお、後者で2座標軸をとって分類する場合、温感・涼感軸と軽快・重厚軸、性格軸と成熟・未熟軸、マインド軸とマチュアー軸が、それぞれ対応する。

- 5     また、本発明に係るメーキャップカラーイメージ分類法は、温感・涼感、性格、マインドから選ばれる少なくとも1つを示すイメージ指標または軽快・重厚、成熟・未熟、マチュアーから選ばれる少なくとも1つを示すイメージ指標を設定するイメージ指標設定工程と、リップカラーおよびアイカラーのうちの少なくとも1つのメーキャップ化粧料を複数種類について顔に施したメーキャップ顔データ
- 10    タを採取するメーキャップ顔データ採取工程と、該イメージ指標を評価項目として、該メーキャップ顔データに基づいてメーキャップ化粧料のカラーイメージを複数の被験者が評価するメーキャップカラーイメージ評価工程と、得られたメーキャップ化粧料のカラーイメージに基づいてメーキャップ化粧料を該イメージ指標を使って分類するメーキャップカラーイメージ分類工程とを有することを特徴
- 15    とする。

- また、本発明に係るメーキャップカラーイメージ分類法は、温感・涼感、性格、マインドから選ばれる少なくとも1つを示すイメージ指標および軽快・重厚、成熟・未熟、マチュアーから選ばれる少なくとも1つを示すイメージ指標を2つの座標軸に設定するイメージ指標設定工程と、リップカラーおよびアイカラーの
- 20    うちの少なくとも1つのメーキャップ化粧料を複数種類について顔に施したメーキャップ顔データを採取するメーキャップ顔データ採取工程と、該2つのイメージ指標を評価項目として、該メーキャップ顔データに基づいてメーキャップ化粧料のカラーイメージを複数の被験者が評価するメーキャップカラーイメージ評価工程と、得られたメーキャップ化粧料のカラーイメージに基づいてメーキャップ
- 25    化粧料を該2つのイメージ指標を座標軸にとって二次元的に分類するメーキャップカラーイメージ分類工程とを有することを特徴とする。

      また、本発明に係るメーキャップカラーイメージ分類法は、コンピュータを用い、収集、解析したカラーイメージ情報に基づいて、メーキャップ化粧料を分類するメーキャップカラーイメージ分類法であって、温感・涼感、性格、マインド

- から選ばれる少なくとも1つを示すイメージ指標または軽快・重厚、成熟・未熟、マチュアーから選ばれる少なくとも1つを示すイメージ指標を設定、入力して表示するイメージ指標表示工程と、リップカラーおよびアイカラーのうちの少なくとも1つのメーキャップ化粧料を複数種類について顔に施したメーキャップ顔
- 5 データを入力して表示するメーキャップ顔データ表示工程と、該イメージ指標を評価項目として、該メーキャップ顔データに基づいてメーキャップ化粧料のカラーイメージを評価して評点データを入力するメーキャップカラーイメージ評価データ入力工程と、複数人によって入力された評点データを集計するメーキャップカラーイメージ評価データ集計工程と、集計した評点データを統計処理して、複
- 10 数種類のメーキャップ化粧料をイメージ指標との関係においてポジショニングした結果を出力するメーキャップカラーイメージ分類情報出力工程とを有することを特徴とする。

- また、本発明に係るメーキャップカラーイメージ分類法は、コンピュータを用い、収集、解析したカラーイメージ情報に基づいてメーキャップ化粧料を分類するメーキャップカラーイメージ分類法であって、温感・涼感、性格、マインドから選ばれる少なくとも1つを示すイメージ指標および軽快・重厚、成熟・未熟、マチュアーから選ばれる少なくとも1つを示すイメージ指標を2つの座標軸に設定、入力して表示するイメージ指標表示工程と、リップカラーおよびアイカラーのうちの少なくとも1つのメーキャップ化粧料を複数種類について顔に施したメーキャップ顔データを入力して表示するメーキャップ顔データ表示工程と、該イ
- 15 メージ指標を評価項目として、該メーキャップ顔データに基づいてメーキャップ化粧料のカラーイメージを評価して座標点を入力するメーキャップカラーイメージ座標平面データ入力工程と、複数人によって入力された評点データを集計するメーキャップカラーイメージ座標平面データ集計工程と、集計した座標評点データ
- 20 を統計処理して、複数種類のメーキャップ化粧料のポジションを示す座標平面図を出力するメーキャップカラーイメージ分類情報出力工程とを有することを特徴とする。

本発明の上記の構成により、カラーイメージを体系的かつ多角的に分析し、分類することができ、メーキャップを効果的に演出することが可能となる。

また、本発明に係るメーキャップカラーイメージマップは、肌にのせて得られる、温感・涼感、性格、マインドから選ばれる少なくとも1つを示すカラーイメージ指標と軽快・重厚、成熟・未熟、マチュアーから選ばれる少なくとも1つを示すカラーイメージ指標とを座標軸にとってリップカラーおよびアイカラーのうちの少なくともいずれか1つを二次元的に分類配置し、表示し、また、このとき

5    ちの少なくともいずれか1つを二次元的に分類配置し、表示し、また、このとき、前記座標軸によって区画される各象限に、それぞれの象限に位置する代表的なカラーイメージを文言表示したことを特徴とする。

本発明の上記の構成により、カラーイメージを容易、かつ的確に把握することができ、メーキャップを効果的に演出することが可能となる。

10

#### 図面の簡単な説明

図1は、本出願人が既に提案した顔だちマップである。

図2は、カラーとイメージとの関係についての従来知見の一例を示す表である。

15    図3は、色感覚の三属性を三軸にとった色立体を示す図である。

図4は、コンピュータを用いて入出力処理する状態を説明するための概略図である。

図5は、本実施の形態例に係るメーキャップカラーイメージ分類法の手順を説明するための工程ブロック図である。

20    図6は、本実施の形態例に係るメーキャップカラーイメージ分類法において、実験に用いたリップカラーの一覧表である。

図7は、本実施の形態例に係るメーキャップカラーイメージ分類法において、実験に用いたアイカラーの一覧表である。

25    図8は、本実施の形態例に係るメーキャップカラーイメージ分類法において用いた評価項目を示したアンケート表である。

図9は、本実施の形態例に係るピンク・ローズ系リップカラーのメーキャップカラーイメージマップである。

図10は、本実施の形態例に係るオレンジ・レッド系リップカラーのメーキャップカラーイメージマップである。

図 1 1 は、本実施の形態例に係るブラウン・無彩色系リップカラーのメーキャップカラーイメージマップである。

図 1 2 は、本実施の形態例に係るアイカラーのメーキャップカラーイメージマップである。

- 5 図 1 3 は、本実施の形態例に係るリップカラーとアイカラーとを組み合わせたときのメーキャップカラーイメージマップである。

図 1 4 は、本実施の形態例に係る顔立ちマップとリップカラーおよびアイカラーのメーキャップカラーイメージマップの各象限に位置する代表的なイメージ用語を表示したマップである。

10

発明を実施するための最良の形態

本発明に係るメーキャップカラーイメージ分類法およびメーキャップカラーイメージマップの好適な実施の形態（以下、本実施の形態例という。）について、図を参照して、以下に説明する。

- 15 まず、メーキャップカラーイメージ分類法について、以下説明する。

顔のイメージを演出するためのメーキャップ用化粧品として、リップカラーおよびアイカラーを用い、それぞれのカラーイメージを明らかにするために、以下の実験を行った。

- 20 このとき、図 4 に示すように、コンピュータを用いて、図 5 に示す手順で、モデルがメーキャップ化粧料を施した顔（メーキャップ顔）、平面座標データ、アンケート記入フォーマット等をモニタ画面 1 に表示し、データをキーボード 2 により入力し、統計処理し、得られた結果を画面表示形式あるいは印刷形式で出力した。

- 25 まず、前記した顔立ちマップにおいてタイプの異なるモデル 3 名に、図 6、図 7 に示すリップカラー 28 色、アイカラー 19 色を施して写真撮影した。そして、このメーキャップを施した顔のデータをコンピュータに入力し（図 5 中 S 2 メーキャップ顔データ採取工程、メーキャップ顔データ表示工程）、以下の工程で適宜画面表示して使用した。ここで、各図中、意味を併記していない記号は、V I はバイオレットを、R S は赤紫（以下、ローズという。）を、P K はピンク

を、RDはレッドを、BRはブラウンを、ORはオレンジを、YEはイエローを、GYはグレーを、GRはグリーンを、BLはブルーを、MNは無彩色を、それぞれ意味する。

- すなわち、例えば、リップカラーに関していえば、色相についてバイオレット系からグレー系までの各色相を網羅し、トーンについてパールからディープまで幅広く用意した。

そして、リップカラーの実験の場合、口元以外は全く同じナチュラルメイクとし、リップカラーの違いによるイメージの変化だけがみてとれるようにした。同様に、アイカラーの実験の場合、目元以外は全く同じナチュラルメイクとした。

- カラーイメージの判定は、一般女性モニター30名と美容技術者31名とを被験者として行った。なお、被験者の年齢の分布は一般女性モニターと美容技術者とで同じになるように構成した。

- なお、上記の工程とは別に、カラーイメージを表すイメージ指標を準備し、この場合、アンケート表の評価項目とし、コンピュータの画面に表を表示し、また、イメージ指標の座標平面図を表示する（図5中S1 イメージ指標設定工程、イメージ指標表示工程）。

- カラーイメージの判定項目は図8に示すアンケート表のとおりである。この場合、カラーイメージを表現する言葉（文言）は、本出願人が検討した前記顔だち分類法および顔だちマップのときに用いたものと類似とした。本発明のメーキャップカラーイメージ分類法およびメーキャップカラーイメージマップと顔だち分類法および顔だちマップとを関係付けて判断し、両分類法および両マップを併用して効果的なメーキャップの演出を行うことが出来るように考慮したものである。このため、以下に説明するカラーイメージマップの2つの座標軸、温感・涼感、性格、マインドから選ばれる少なくとも1つを示すカラーイメージ指標の軸（以下、代表例として、温感・涼感軸という。）と軽快・重厚、成熟・未熟、マチュアーから選ばれる少なくとも1つを示すカラーイメージ指標の軸（以下、代表例として、軽快・重厚という。）は、顔だちマップのときにバランス軸とフォルム軸とで画成される各象限に位置する顔のもつイメージを表現する言葉に置き換えたもの（図1参照）の2軸と同一とした。なお、この場合、カラーイメージ



マップと顔だちマップの2軸を重ねることなく座標軸を回転させたマップであってもよく、さらにまた、カラーイメージを表現する多数の言葉を顔だちマップのときに用いた言葉とは無関係に設定し、得られたデータを顔だちマップのときと同様に因子分析等の統計的手法によって解析し、新たなイメージ軸を設定しても

- 5 よい。また、この実施例では、上記した観点から座標軸として2軸を設定したが、これに限らず、3軸以上を設定してより多次元的、多面的に評価してもよい。

アンケート結果は、「そう思う」を2点、「ややそう思う」を1点として各カラーイメージを表現する言葉毎に得点を集計し、それに基づいて、各カラーを各カラーイメージを表現する言葉のもつ方向性と得点にしたがって上記した2つの座  
10 標軸を設定したマップ上に配置した（図5中S3 メーキャップカラーイメージ評価工程、メーキャップカラーイメージデータ入力工程、メーキャップカラーイメージ座標平面データ入力工程）。

図9～図11に、リップカラーのメーキャップカラーイメージマップを示す。この場合、一般女性モニターと美容技術者のアンケート結果をそれぞれ集計（図  
15 5中S4 メーキャップカラーイメージデータ集計工程、メーキャップカラーイメージ座標平面データ集計工程）、解析し、さらに各解析結果を総合的に解析して1つのマップを作成した（図5中S5 メーキャップカラーイメージ分類工程、メーキャップカラーイメージ分類情報出力工程）。なお、前者に関して、一般女性モニターと美容技術者のアンケート結果とを別々に解析した2つマップも作  
20 成しており、この2つのマップをみると、例えば、後者の美容技術者のマップの場合、前者の一般女性モニターのマップと比べて各カラーが横軸（温感・涼感軸）方向に幅広く分布している等の差異もあり、2つのマップを作成して用いることによる有意義な結果が得られるが、本発明のメーキャップカラーイメージマップを実際にメーキャップの演出に用いる場合は、全部のデータを総合的に評価し  
25 、マップ上で各カラー毎にゾーン表示してある程度の幅を持たせ、カラー選択に自由度を持たせるほうが実用的であると考えられる。

図9～図11の3つに分けたのは、上記により、各カラー毎に幅のあるゾーン表示を行ったため、1つのマップに全カラーを表示すると複数のカラーのゾーンが重なってしまい不都合なためである。

図9の赤みとともに青みを含んだピンク・ローズ系のマップをみると、第1象限（例えば、可愛らしいイメージの位置するゾーン）から第4象限（例えば、女らしいイメージの位置するゾーン）にかけて、薄い色、明るい色は第1象限に、濃い色、はっきりした色は第4象限に分布していることがわかる。

- 5 図10のオレンジ・レッド系のマップをみると、カラーの分布が上記ピンク・ローズ系に比べて左側、すなわち、マップの中央側にシフトし、縦長に広がっていることがわかる。

- 図11の赤みの少ないブラウン・グレー系のマップをみると、カラーの分布が上記オレンジ・レッド系に比べてさらに左側にシフトし、縦長に広がっており、  
10 第3象限（例えば、シャープなイメージの位置するゾーン）のイメージが強いことがわかる。

図12にアイカラーのメーキャップカラーイメージマップを示す。この場合も上記リップカラーの場合と同様の手順によってデータの解析と整理を行って、各カラー毎にゾーン表示した。

- 15 図12をみると、第1象限（可愛らしいイメージの位置するゾーン）にはイエロー等のきれいで明るいカラーが位置し、第2象限（例えば、さわやかなイメージの位置するゾーン）にはごく淡い無彩色やブラウンなどほとんどホワイトに近いカラーが位置し、第3象限（シャープなイメージの位置するゾーン）にはブラウンや無彩色の濃いめやブラック等の赤みがないか、あるいは赤みが少なく、  
20 ある程度濃さのあるカラーが位置し、第4象限（女らしいイメージの位置するゾーン）には濃いピンクやバイオレット等の適度な赤みをもち、特に、青みを含んだカラーが位置していることがわかる。これに対して、ブルーと青みのグリーンは図のほぼ中央に位置している。

- 総じて、アイカラーのメーキャップカラーイメージマップはリップカラーのイ  
25 メージマップとほぼ同様の傾向を示しているといえる。

なお、この結果を色彩学の観点からみれば、青みのカラーは寒色系、すなわち、涼しさを感じさせるおだやかな色であるため、マップの左側、第2象限および第3象限に位置するのが適当であると考えられるが、マップ上のメーキャップカラーイメージとしては青みのカラーは図中ほぼ中央に位置している。これは、ア

イメイクやリップメイクの背景には常に肌のカラーが存在しているためである。  
すなわち、ブルーとくすんだオレンジである肌のカラーとは色彩学上の補色の関係にあり、ブルーは肌のカラーに対して目立つカラーであるため、メーキャップカラーイメージとしては、ブルーの本来的なイメージであるさわやか、クールと  
5 いったイメージを与えるとともに可愛い、華やかといった逆のイメージをも与えるものと考えられる。つまり、ブルー系のカラーはちょっとしたトーンや質感の違いで様々なイメージを演出しうる可能性を秘めており、この点において、メーキャップのときのカラーイメージと色彩学上のカラーイメージとは顕著に相違する場合もある。

10 つぎに、上記のようにマップ化されるリップカラーとアイカラーとを組み合わせたとときのカラーイメージについても実験を行った。結果のみを図13に示す。

図13をみると、第1象限（可愛いイメージの位置するゾーン）には、ピンクのアイカラーとピンクのペールのリップカラーの組み合わせが位置し、第2象限（さわやかなイメージの位置するゾーン）にはホワイトパールのアイカラー  
15 とオレンジのペールのリップカラーの組み合わせが位置し、第3象限（シャープなイメージの位置するゾーン）には無彩色の濃いアイカラーと濃いブラウンのリップカラーの組み合わせが位置し、第4象限（女らしいイメージの位置するゾーン）にはピンク系の濃いアイカラーとローズのモデレートなリップカラーの組み合わせが位置している。

20 このことは、実用的には、それぞれのマップの同じ象限に配置されたリップカラーとアイカラーとを組み合わせれば、顔全体としてもその象限のイメージを表現することができることを意味する。

なお、図14に、上記各座標軸で区画される各象限に位置する代表的なカラーイメージについて、さらに詳細に示す。この図14と上記図9～図13を対比、  
25 参照することにより、カラーイメージを容易、かつ的確に把握することができ、メーキャップを効果的に演出することが可能となる。

以上説明したように、本発明のメーキャップカラーイメージ分類法およびメーキャップカラーイメージマップはリップカラーまたはアイカラーのいずれか単独でメーキャップを演出するとき、あるいはこれらを組み合わせるメーキャップを

演出するときに有用であることは勿論のこと、さらに、前記した顔だち分類法および顔だちマップと組み合わせてメーキャップを演出すると、一層効果的にメーキャップを演出することができる。

- 例えば、メーキャップ化粧品販売店の店頭にコンピュータを配置し、メーキャップ化粧品を組み合わせたメーキャップ顔写真を見ることによって、視覚を通じて顧客個々人が主観によってメーキャップカラーイメージを発想することができるとともに、さらに、メーキャップカラーイメージマップを画面表示し、このメーキャップカラーイメージマップを用いて幅広い客観的な情報に基づいた望ましい化粧法のアドバイスを化粧技術者が顧客に対して的確に行うことができる。
- 5

## 請求の範囲

1. 色を肌にのせて得られる、温感・涼感、性格、マインドから選ばれる少なくとも1つを示すカラーイメージ指標と軽快・重厚、成熟・未熟、マチュアーから選ばれる少なくとも1つを示すカラーイメージ指標とを使ってリップカラーおよびアイカラーのうちの少なくともいずれか1つを分類することを特徴とするメーキャップカラーイメージ分類法。
- 5
2. クレーム1記載のメーキャップカラーイメージ分類法において、  
前記温感・涼感、性格、マインドから選ばれる少なくとも1つを示すカラーイメージ指標と前記軽快・重厚、成熟・未熟、マチュアーから選ばれる少なくとも1つを示すカラーイメージ指標とを座標軸にとって二次元的に分類することを特徴とするメーキャップカラーイメージ分類法。
- 10
3. 温感・涼感、性格、マインドから選ばれる少なくとも1つを示すイメージ指標または軽快・重厚、成熟・未熟、マチュアーから選ばれる少なくとも1つを示すイメージ指標を設定するイメージ指標設定工程と、  
リップカラーおよびアイカラーのうちの少なくとも1つのメーキャップ化粧料を複数種類について顔に施したメーキャップ顔データを採取するメーキャップ顔データ採取工程と、  
該イメージ指標を評価項目として、該メーキャップ顔データに基づいてメーキャップ化粧料のカラーイメージを複数の被験者が評価するメーキャップカラーイメージ評価工程と、  
得られたメーキャップ化粧料のカラーイメージに基づいてメーキャップ化粧料を該イメージ指標を使って分類するメーキャップカラーイメージ分類工程とを有することを特徴とするメーキャップカラーイメージ分類法。
- 15
- 20
- 25
4. 温感・涼感、性格、マインドから選ばれる少なくとも1つを示すイメー

ジ指標および軽快・重厚、成熟・未熟、マチュアーから選ばれる少なくとも1つを示すイメージ指標を2つの座標軸に設定するイメージ指標設定工程と、

リップカラーおよびアイカラーのうちの少なくとも1つのメーキャップ化粧料を複数種類について顔に施したメーキャップ顔データを採取するメーキャップ顔

5 データ採取工程と、

該2つのイメージ指標を評価項目として、該メーキャップ顔データに基づいてメーキャップ化粧料のカラーイメージを複数の被験者が評価するメーキャップカラーイメージ評価工程と、

得られたメーキャップ化粧料のカラーイメージに基づいてメーキャップ化粧料を該2つのイメージ指標を座標軸にとって二次元的に分類するメーキャップカラーイメージ分類工程とを有することを特徴とするメーキャップカラーイメージ分類法。

5. コンピュータを用い、収集、解析したカラーイメージ情報に基づいてメーキャップ化粧料を分類するメーキャップカラーイメージ分類法であって、

15 温感・涼感、性格、マインドから選ばれる少なくとも1つを示すイメージ指標または軽快・重厚、成熟・未熟、マチュアーから選ばれる少なくとも1つを示すイメージ指標を設定、入力して表示するイメージ指標表示工程と、

リップカラーおよびアイカラーのうちの少なくとも1つのメーキャップ化粧料を複数種類について顔に施したメーキャップ顔データを入力して表示するメーキ

20 ャップ顔データ表示工程と、

該イメージ指標を評価項目として、該メーキャップ顔データに基づいてメーキャップ化粧料のカラーイメージを評価して評点データを入力するメーキャップカラーイメージ評価データ入力工程と、

複数人によって入力された評点データを集計するメーキャップカラーイメージ

25 評価データ集計工程と、

集計した評点データを統計処理して、複数種類のメーキャップ化粧料をイメージ指標との関係においてポジショニングした結果を出力するメーキャップカラーイメージ分類情報出力工程とを有することを特徴とするメーキャップカラーイメージ分類法。

6. コンピュータを用い、収集、解析したカラーイメージ情報に基づいてメーキャップ化粧料を分類するメーキャップカラーイメージ分類法であって、

温感・涼感、性格、マインドから選ばれる少なくとも1つを示すイメージ指標および軽快・重厚、成熟・未熟、マチュアーから選ばれる少なくとも1つを示す

5 イメージ指標を2つの座標軸に設定、入力して表示するイメージ指標表示工程と、

リップカラーおよびアイカラーのうちの少なくとも1つのメーキャップ化粧料を複数種類について顔に施したメーキャップ顔データを入力して表示するメーキャップ顔データ表示工程と、

10 該イメージ指標を評価項目として、該メーキャップ顔データに基づいてメーキャップ化粧料のカラーイメージを評価して座標点を入力するメーキャップカラーイメージ座標平面データ入力工程と、

複数人によって入力された評点データを集計するメーキャップカラーイメージ座標平面データ集計工程と、

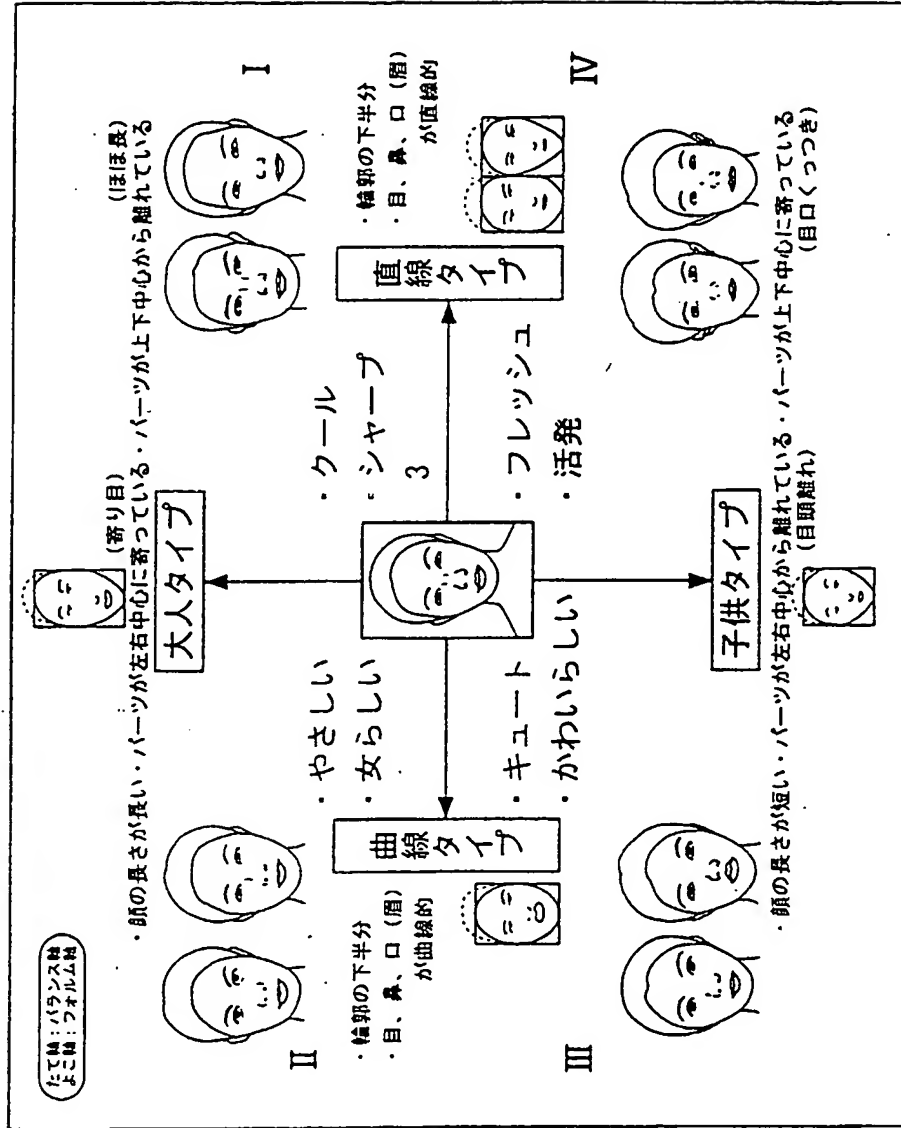
15 集計した座標評点データを統計処理して、複数種類のメーキャップ化粧料のポジションを示す座標平面図を出力するメーキャップカラーイメージ分類情報出力工程とを有することを特徴とするメーキャップカラーイメージ分類法。

7. 色を肌にのせて得られる、温感・涼感、性格、マインドから選ばれる少なくとも1つを示すカラーイメージ指標と軽快・重厚、成熟・未熟、マチュアーから選ばれる少なくとも1つを示すカラーイメージ指標とを座標軸にとってリップカラーおよびアイカラーのうちの少なくともいずれか1つを二次元的に分類配置し、表示したことを特徴とするメーキャップカラーイメージマップ。

25 8. クレーム7記載のメーキャップカラーイメージマップにおいて、  
前記座標軸によって区画される各象限に、それぞれの象限に位置する代表的なカラーイメージを文言表示したことを特徴とするメーキャップカラーイメージマップ。

FIG. 1

フォルム軸



「顔立ちマップ」



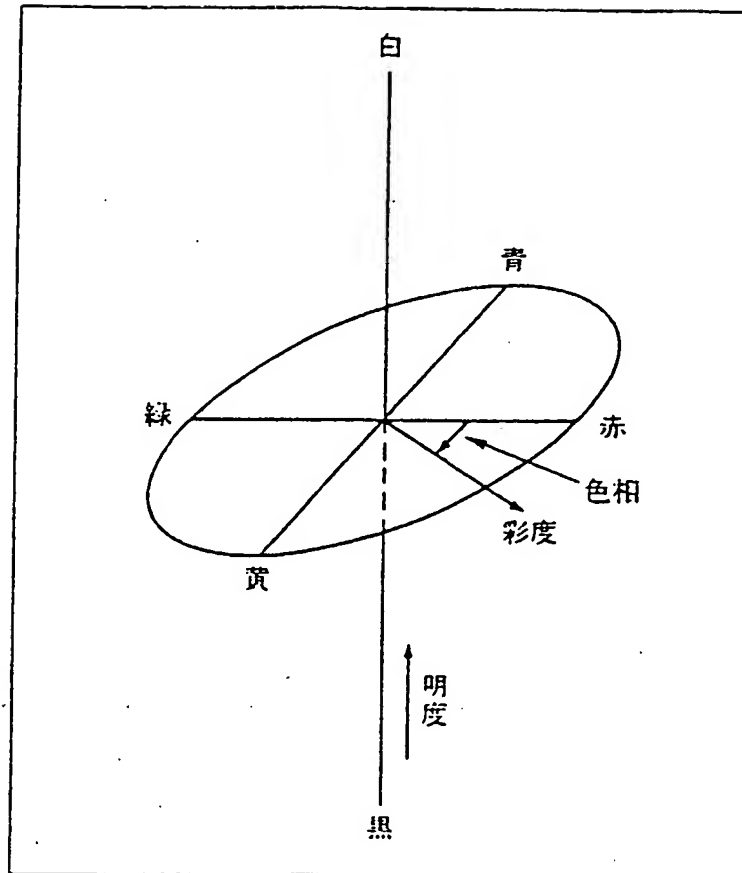
FIG. 2

## 色と感情の関係

属性種別		感情の性質	色の例	感情の例
色相	暖色	暖かい 積極的 活動的	赤	激情, 怒り, 歡喜, 活力的, 興奮
			黄赤	喜び, はしゃぎ, 活発さ, 元気
			黄	快活, 明朗, 愉快, 活動的, 元気
	中性色	中庸 平靜 平凡	緑	安らぎ, 寛ろぎ, 平靜, 若々しさ
			紫	嚴肅, 優えん(婉), 神秘, 不安, やさしさ
	寒色	冷たい 消極的 沈靜的	青緑	安息, 涼しさ, 憂うつ
			青	落着き, 淋しさ, 悲哀, 深遠, 沈靜
			青紫	神秘, 崇高, 孤独
	明度	明	陽氣 明朗	白
中		落着き	灰	落着き, 抑うつ
暗		陰氣 重厚	黒	陰うつ, 不安, 嚴めしい
彩度	高	新鮮 潑らつ	朱	熱烈, 激しさ, 情熱
	中	寛ぎ 温和	ピンク	愛らしさ, やさしさ
	低	渋み 落着き	茶	落着き

(日本色彩学編：新編色彩科学ハンドブック。東大出版会，1980)

FIG. 3



色感覚の三属性を三軸にとった色立体 (出典 日本色彩学編)

FIG.4



FIG.5

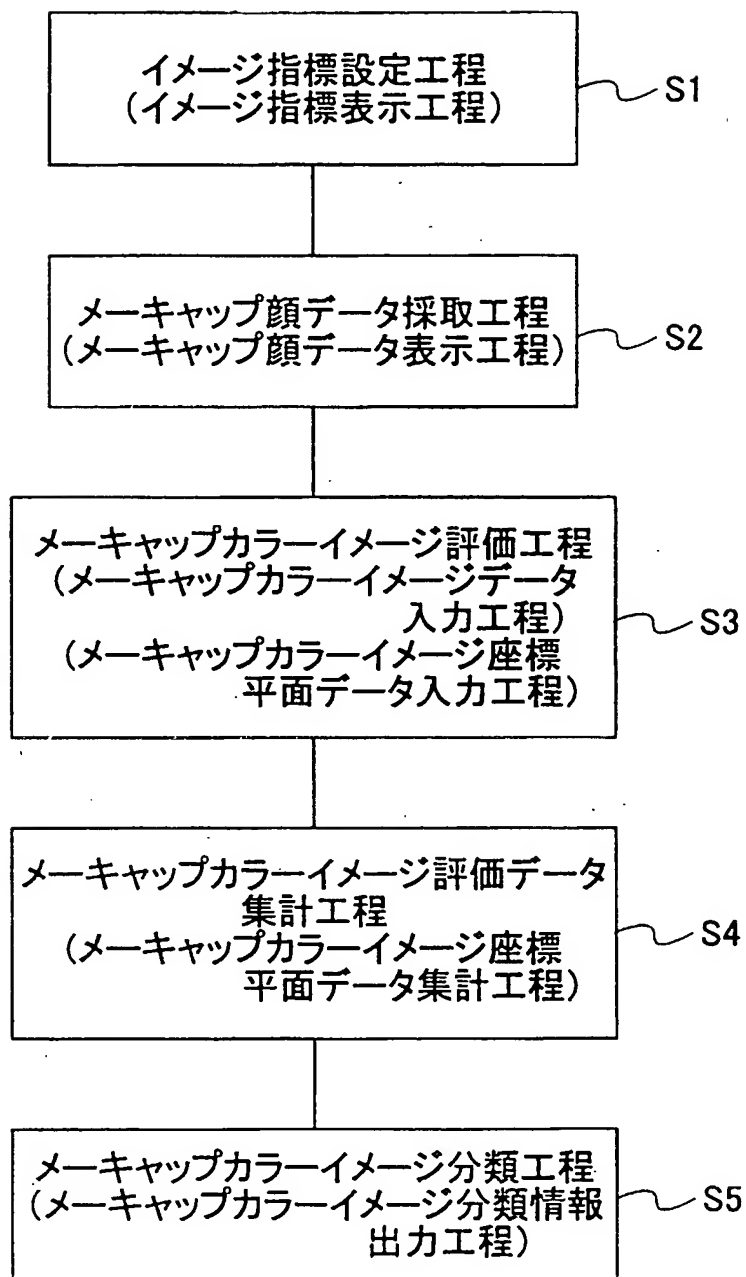












FIG. 6

リップカラー テスト色

	VI	RS	PK	RD	育みBR	黄みBR	OR	YE	GY
パール P									
モデレート M									
ビビット V				育みRD					
				黄みRD					
ディープ D									

FIG. 7

アイカラー テスト色

	青みGR	BL	VI	PK	OR	YE	黄みGR
							
ディープ D							











	青みBR	赤みBR	BR	黄みBR	MN
ごく淡い LL					
淡い L					
モデレート M					
ディープ D					

FIG. 8

## アンケート表

	そう思う	ややそう思う	そう思わない
■ 大人っぽい			
■ シャープ			
■ やわらかい			
■ すっきりした			
■ 軽やか			
■ 落ち着いた			
■ クール			
■ 優しい			
■ さわやか			
■ 可愛いらしい			
■ 知的			
■ 子供っぽい			
■ 女らしい			
■ スイート			
■ 華やか			
■ 活発			
■ 美しい			
■ 似合う			
■ 魅力的			
■ 派手			
■ 個性的			
■ 好き			

FIG. 9

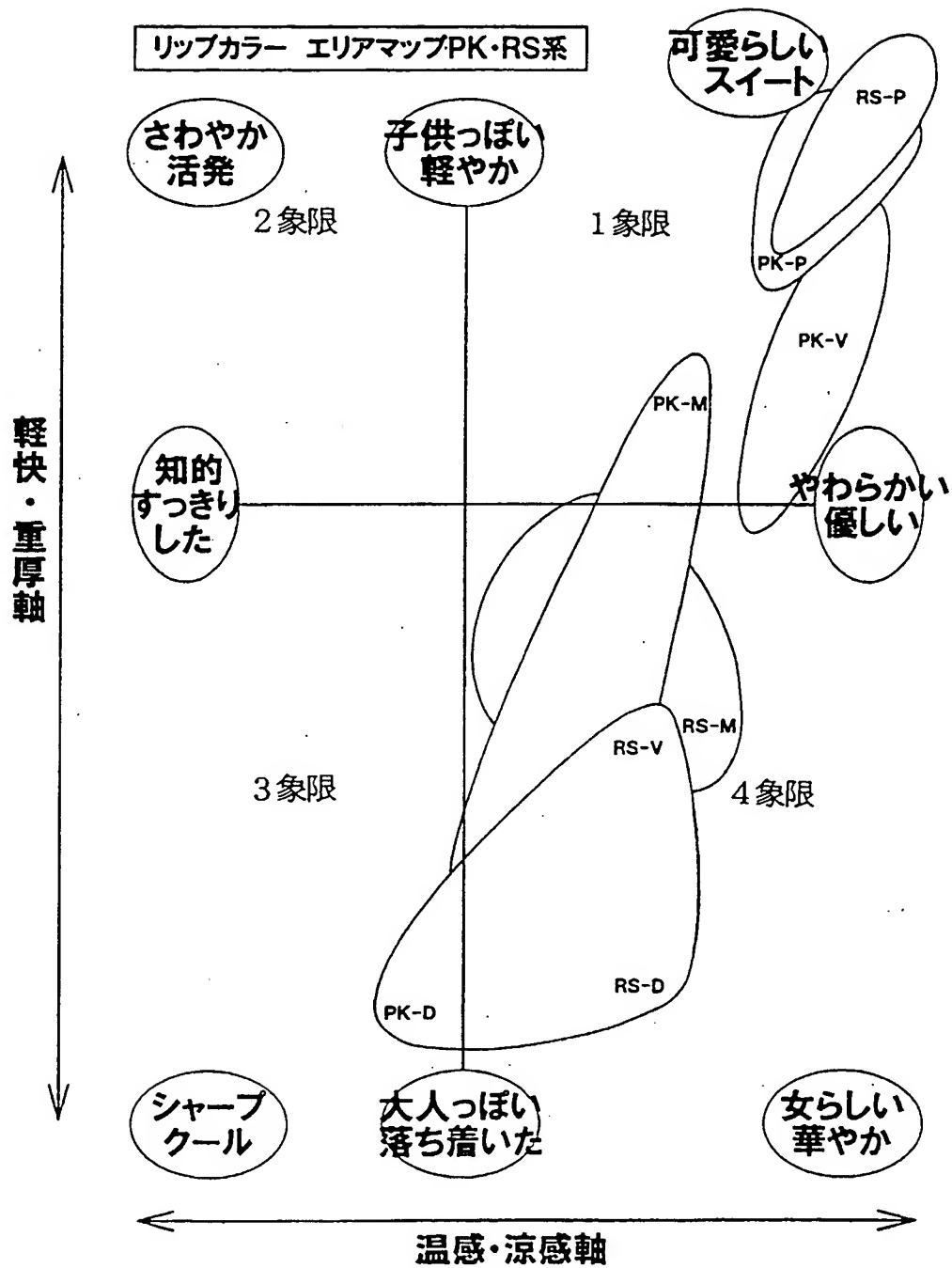




FIG. 10

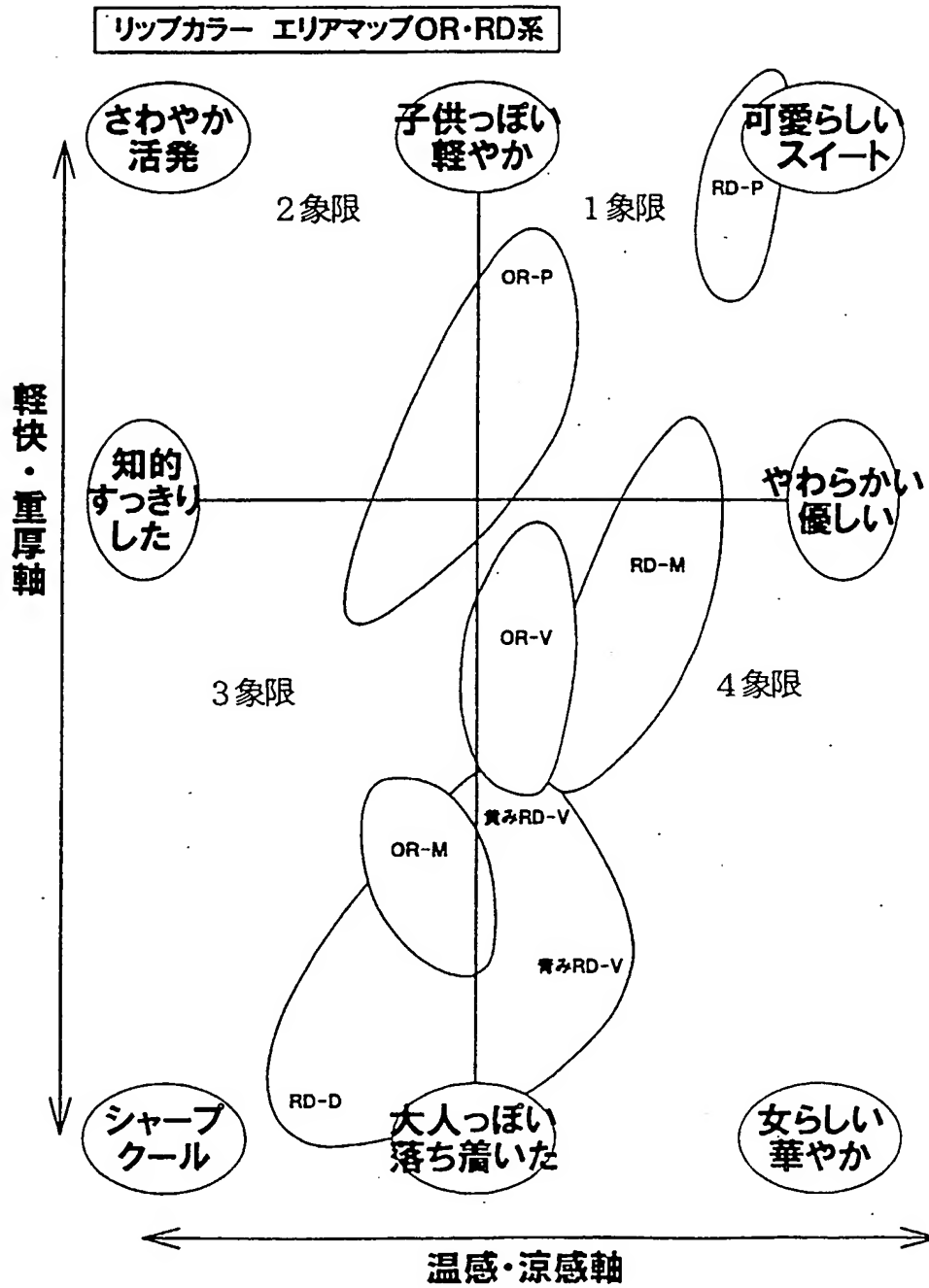


FIG. 11

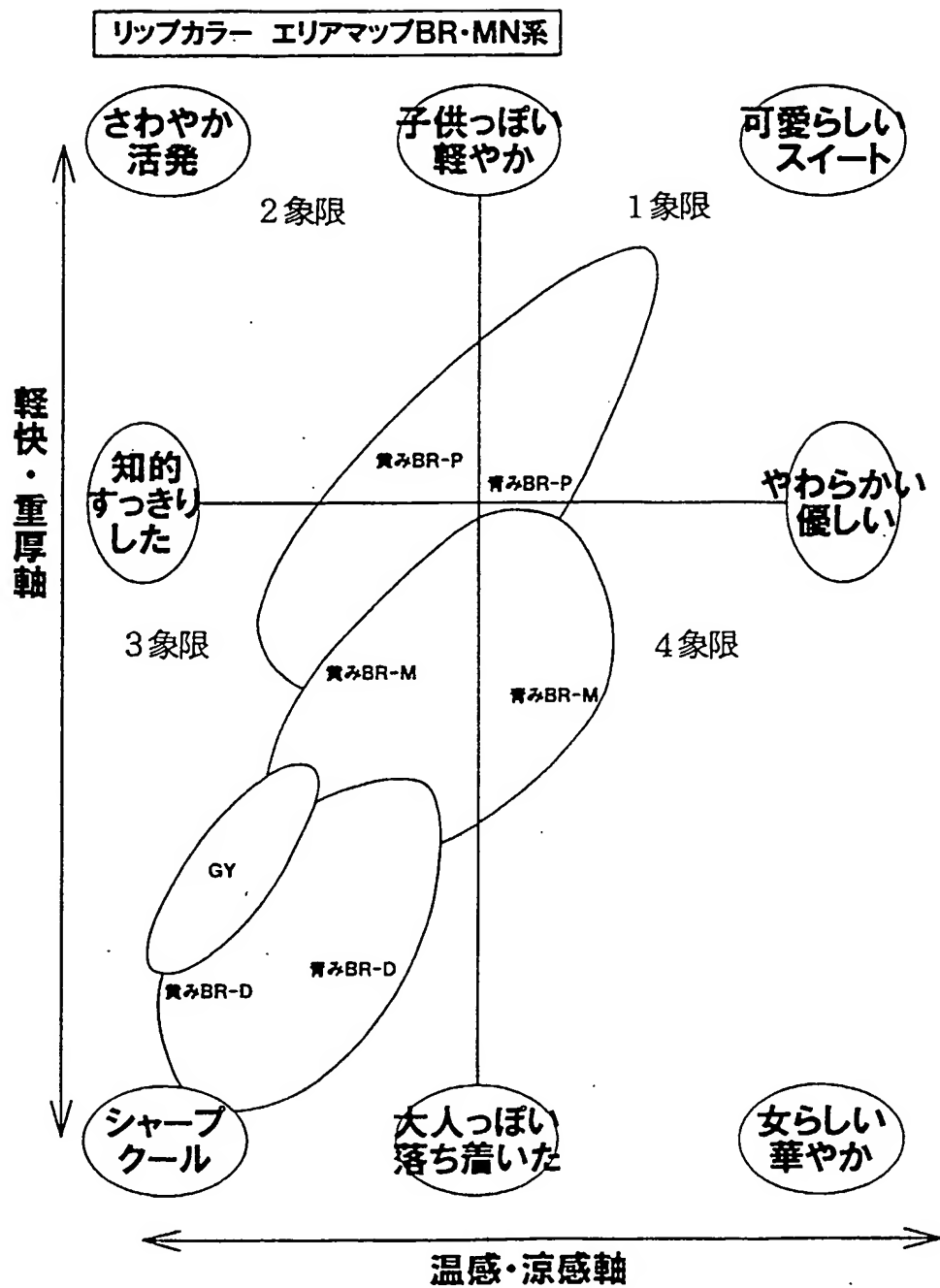


FIG. 12

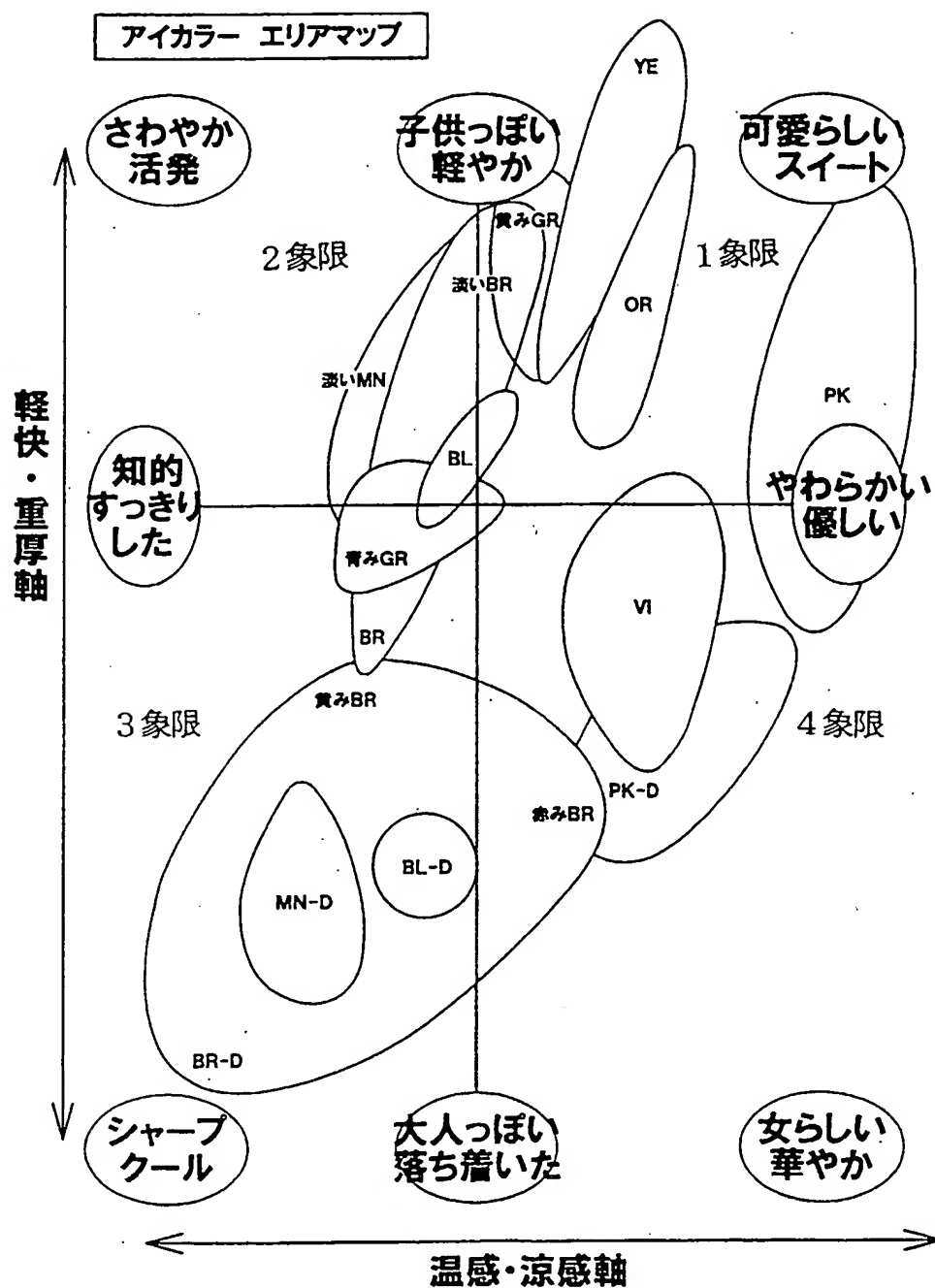


FIG. 13

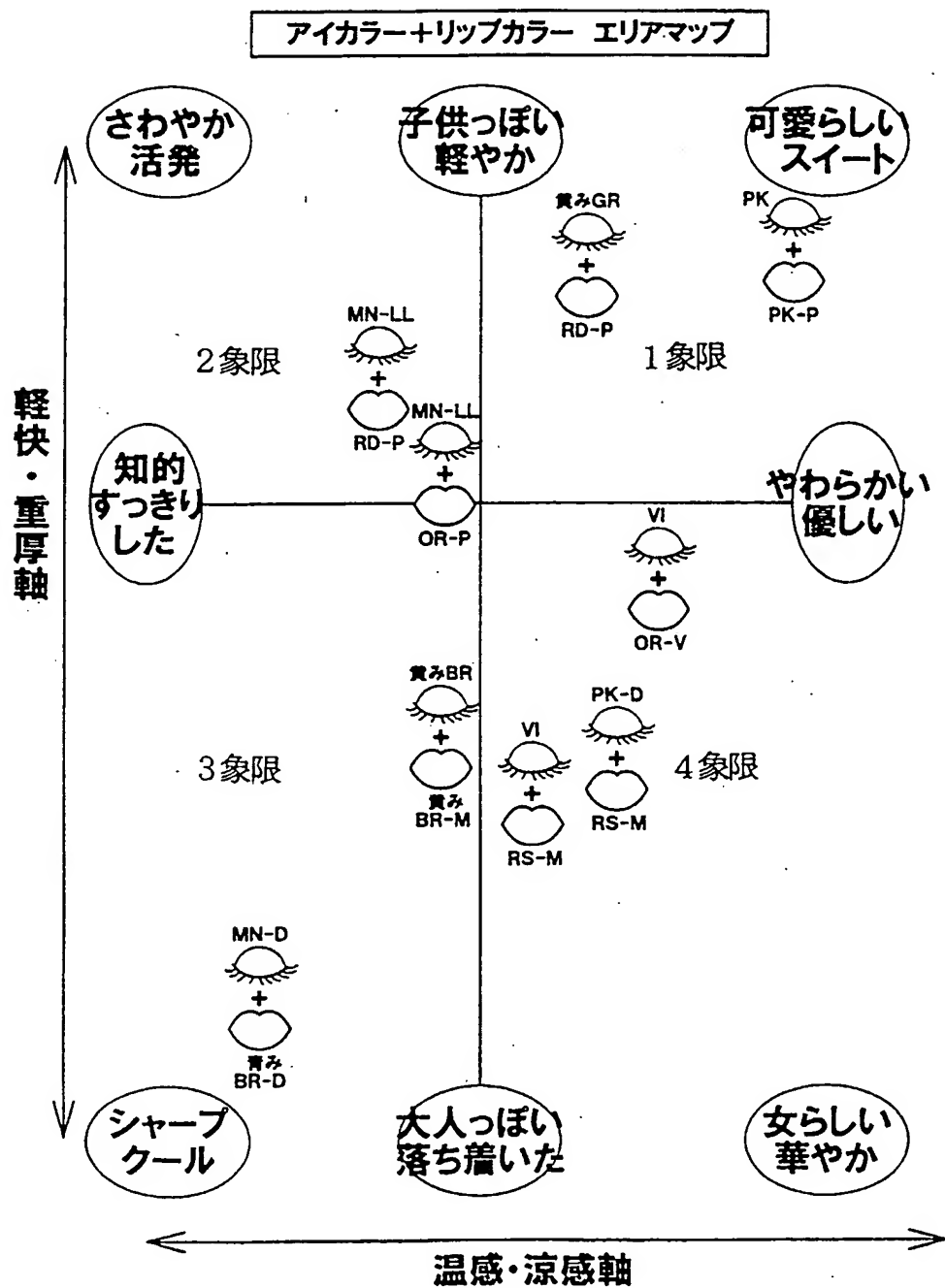
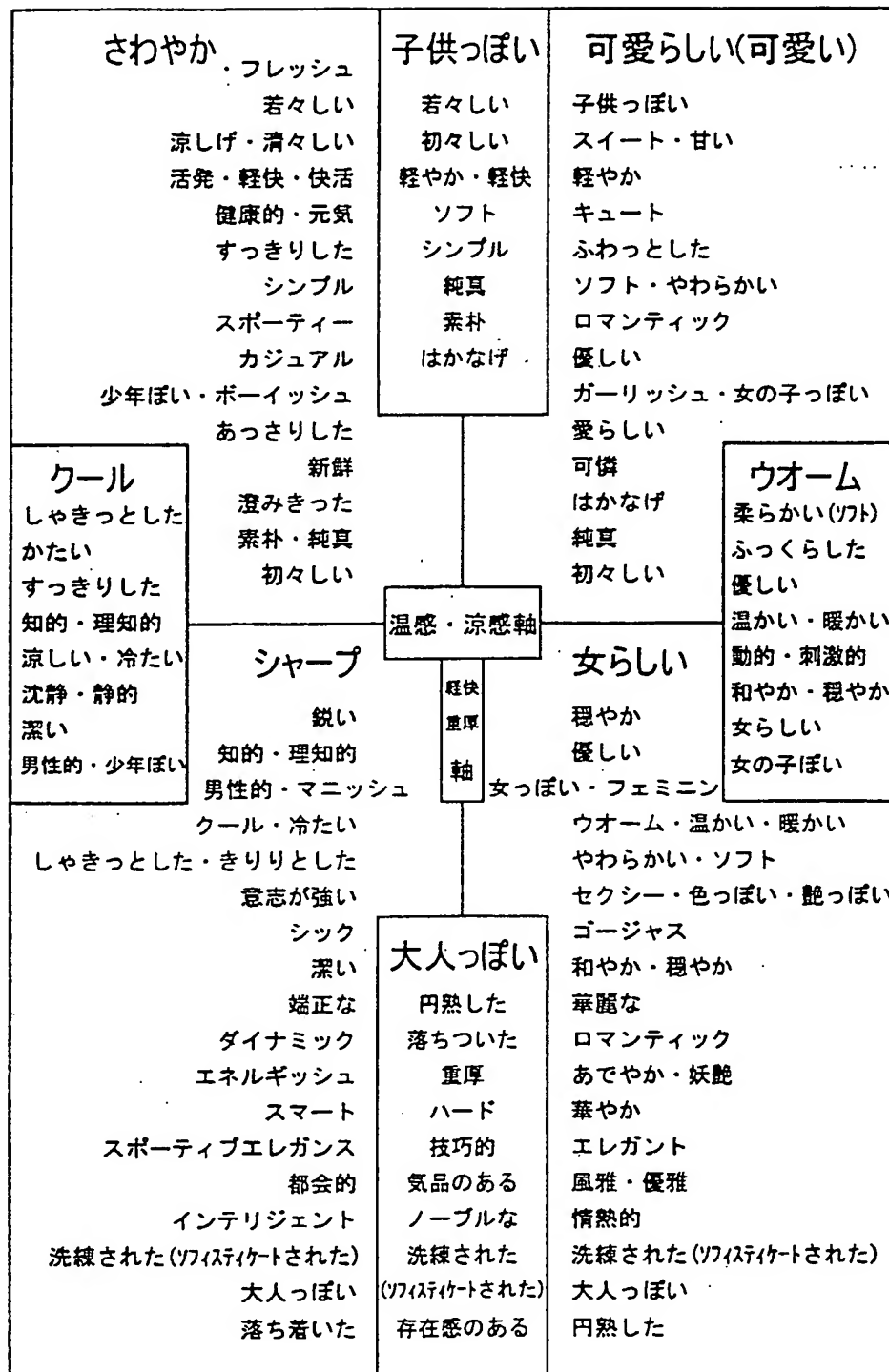


FIG. 14



# PATENT COOPERATION TREATY

## PCT

### DECLARATION OF NON-ESTABLISHMENT OF INTERNATIONAL SEARCH REPORT

(PCT Article 17(2)(a), Rules 13ter.1(c) and 39)

Applicant's or agent's file reference <b>SS01001PCT</b>	<b>IMPORTANT DECLARATION</b>	Date of mailing ( <i>day/month/year</i> ) <b>24 July, 2001 (24.07.01)</b>
International application No. <b>PCT/JP01/03162</b>	International filing date ( <i>day/month/year</i> ) <b>12 April, 2001 (12.04.01)</b>	(Earliest) Priority Date ( <i>day/month/year</i> ) <b>13 April, 2000 (13.04.00)</b>
International Patent Classification (IPC) or both national classification and IPC <b>A45D44/00</b>		
Applicant <b>Shiseido Company, Limited</b>		

This International Searching Authority hereby declares, according to Article 17(2)(a), that no international search report will be established on the international application for the reasons indicated below.

1. ☐ The subject matter of the international application relates to:
  - a. ☐ scientific theories.
  - b. ☐ mathematical theories.
  - c. ☐ plant varieties.
  - d. ☐ animal varieties.
  - e. ☐ essentially biological processes for the production of plants and animals, other than microbiological processes and the products of such processes.
  - f. ☐ schemes, rules or methods of doing business.
  - g. ☒ schemes, rules or methods of performing purely mental acts.
  - h. ☐ schemes, rules or methods of playing games.
  - i. ☐ methods for treatment of the human body by surgery or therapy.
  - j. ☐ methods for treatment of the animal body by surgery or therapy.
  - k. ☐ diagnostic methods practised on the human or animal body.
  - l. ☐ mere presentations of information.
  - m. ☐ computer programs for which this International Searching Authority is not equipped to search prior art.
  
2. ☐ The failure of the following parts of the international application to comply with prescribed requirements prevents a meaningful search from being carried out:
 

☐ the description
 ☐ the claims
 ☐ the drawings
  
3. ☐ The failure of the nucleotide and/or amino acid sequence listing to comply with the standard provided for in Annex C of the Administrative Instructions prevents a meaningful search from being carried out:
 

☐ the written form has not been furnished or does not comply with the standard.
 ☐ the computer readable form has not been furnished or does not comply with the standard.
  
4. Further comments:
 

Evaluating color images using an image index as an evaluation item by a plurality of subjects and sorting the color images relates to methods using performance of purely mental acts.

Name and mailing address of the ISA/ <b>Japanese Patent Office</b>	Authorized officer
Facsimile No.	Telephone No.

## 特許協力条約

PCT

## 国際調査報告を作成しない旨の決定

(法第8条第2項、法施行規則第42条、第50条の3第  
〔PCT17条(2)(a)、PCT規則13の3.1(c)、39〕

出願人又は代理人 の書類記号 SS01001PCT	重要決定	発送日 (日.月.年) 24.07.01
国際出願番号 PCT/J P 0 1 / 0 3 1 6 2	国際出願日 (日.月.年) 1 2 . 0 4 . 0 1	優先日 (日.月.年) 1 3 . 0 4 . 0 0
国際特許分類 ( I P C ) A 4 5 D 4 4 / 0 0		
出願人 (氏名又は名称) 株式会社 資生堂		

この出願については、法第8条第2項（PCT17条(2)(a)）の規定に基づき、次の理由により国際調査報告を作成しない旨の決定をする。

1. ☐ この国際出願は、次の事項を内容としている。
- a. ☐ 科学の理論
- b. ☐ 数学の理論
- c. ☐ 植物の品種
- d. ☐ 動物の品種
- e. ☐ 植物及び動物の生産の本質的に生物学的な方法（微生物学的方法による生産物及び微生物学的方法を除く。）
- f. ☐ 事業活動に関する計画、法則又は方法
- g. ☒ 純粋に精神的な行為の遂行に関する計画、法則又は方法
- h. ☐ 遊戯に関する計画、法則又は方法
- i. ☐ 人の身体の手術又は治療による処置方法
- j. ☐ 動物の身体の手術又は治療による処置方法
- k. ☐ 人又は動物の身体の診断方法
- l. ☐ 情報の単なる提示
- m. ☐ この国際調査機関が先行技術を調査できないコンピューター・プログラム
2. ☐ この国際出願の次の部分が所定の要件を満たしていないので、有効な国際調査をすることができない。
- ☐ 明細書 ☐ 請求の範囲 ☐ 図面
3. ☐ ヌクレオチド又はアミノ酸の配列表が実施細則の附属書C（塩基配列又はアミノ酸配列を含む明細書等の作成のためのガイドライン）に定める基準を満たしていないので、有効な国際調査をすることができない。
- ☐ 書面による配列表が提出されていない又は所定の基準を満たしていない。
- ☐ フレキシブルディスクによる配列表が提出されていない又は所定の基準を満たしていない。
4. 附記

イメージ指標を評価項目として、カラーイメージを複数の被験者が評価し、当該カラーイメージを分類することは、純粹に精神的な行為の遂行を用いた方法に該当する。

名称及びあて名 日本国特許庁（ＩＳＡ／ＪＰ） 郵便番号１００－８９１５ 東京都千代田区霞が関三丁目４番３号	特許庁審査官（権限のある職員） 富岡 和人	３Ｒ ８ ７ １ ６
	電話番号 ０３－３５８１－１１０１ 内線 ３３８６	